

別添え1

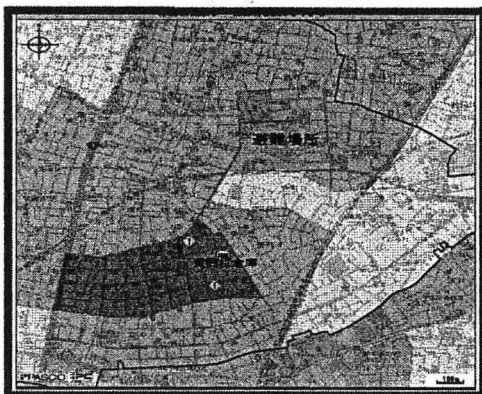
〇〇消防署からお知らせ

東京消防庁ホームページに訓練用防災マップが公開されました

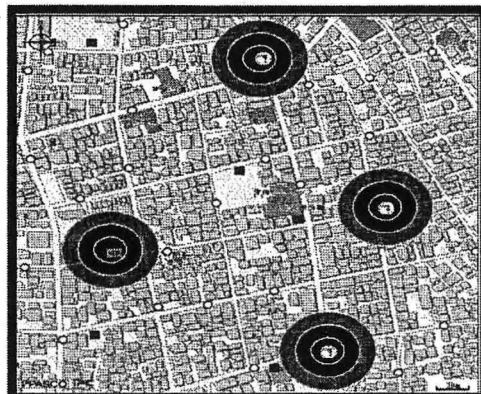
訓練用防災マップは、都民のみなさんが、初期消火を行う時に役立つ消火栓や防災水槽などの位置情報や、お住まいの地域の延焼危険度などを、見ることができます。また、いろいろな作図機能を使って、自分たちのまちの「防災マップ」を作成することも可能です。ぜひご利用ください。

活用事例

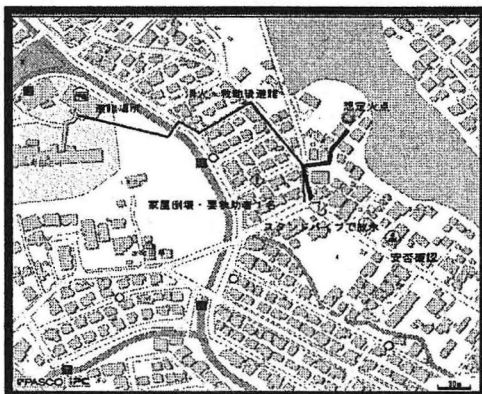
まち歩き防災マップ



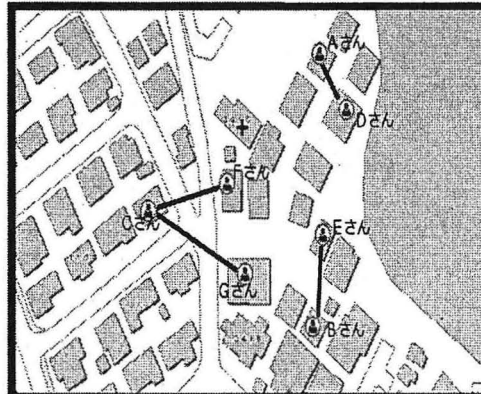
初期消火対応地図



訓練想定図



見守りマップ



東京消防庁ホームページ→安心・安全情報→トピックス→訓練用防災マップからご利用ください。

このマップに関する問合せ先

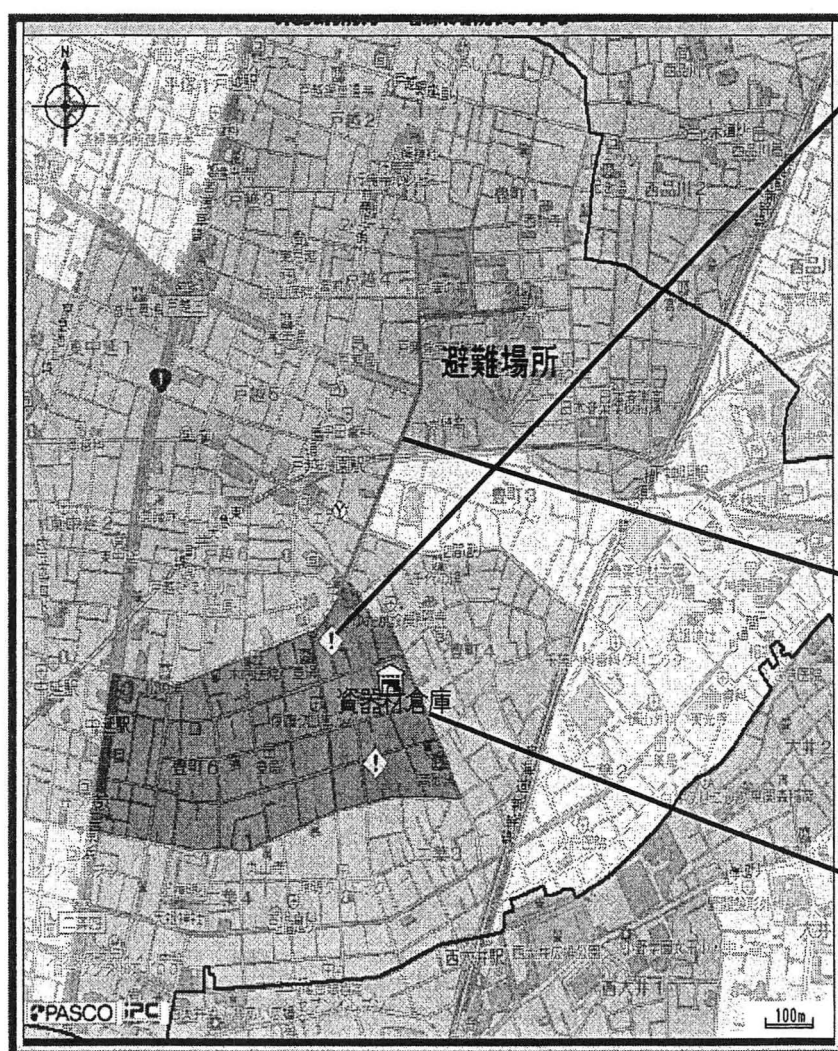
東京消防庁 防災部防災安全課 総合防災教育係

電話 03-3212-2111 内線 4230 メール bouanka3@tfd.metro.tokyo.jp

まち歩き防災マップの作成例

(活用例)

町会・自治会でまち歩きを実施し、延焼危険度の把握や、倒壊危険などの危険箇所の情報や有用な資器材の情報などを作図するほか、避難場所への経路を線で作図するなど、町会・自治会の防災マップを作成します。



STEP 1

倒壊危険、落下危険、危険物施設など避難に障害になる箇所を作図します。また、資器材倉庫など、防災上有用な施設について作図します。

STEP 2

避難場所までの経路を表示します。距離を測ることも可能です。

STEP 3

地図が見やすく、誰が見てもわかりやすいように、文字を追加します。

※ 地図上に図示した情報は仮想のものであるため、実情とは相違しています。

作成方法

準備

東京消防庁ホームページ→安心・安全情報→トピックス→訓練用防災マップをクリックします。住所検索から表示したい住所を入力し検索→地図表示をクリックします。次に、左側にある表示切替ウィンドウの延焼危険度の口をチェックし、水利施設のチェックを外します。

STEP 1

危険箇所及び資器材倉庫を作図します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「点」→「危険情報」にチェックを入れて地図上の該当箇所をクリックします。作図ツールの「入力図形を確定」をクリックします。適宜危険箇所を地図上に作図してください。同様に資器材倉庫も作図します。

STEP 2

避難場所への経路を作図します。作図ツールの「線」で避難開始場所をクリックし、次の曲がり角をクリックすると線が表示されます。順次避難場所に向けて曲がり角をクリックしていくことで、避難経路が表示されます。最後に「入力図形を確定」をクリックします。右上機能ボタンの「測る」→「距離計測」で、作成した避難経路の線上をクリックしていくことで、避難開始場所から避難場所までの距離を測ることができます。

STEP 3

地図上に文字を追加します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「文字」をクリックし、作図ツールの「(3)表示する文字を入力」欄に表示したい文字を入力し、「入力図形を確定」をクリックします。順次表示したい文字を入力してください。

保存・印刷

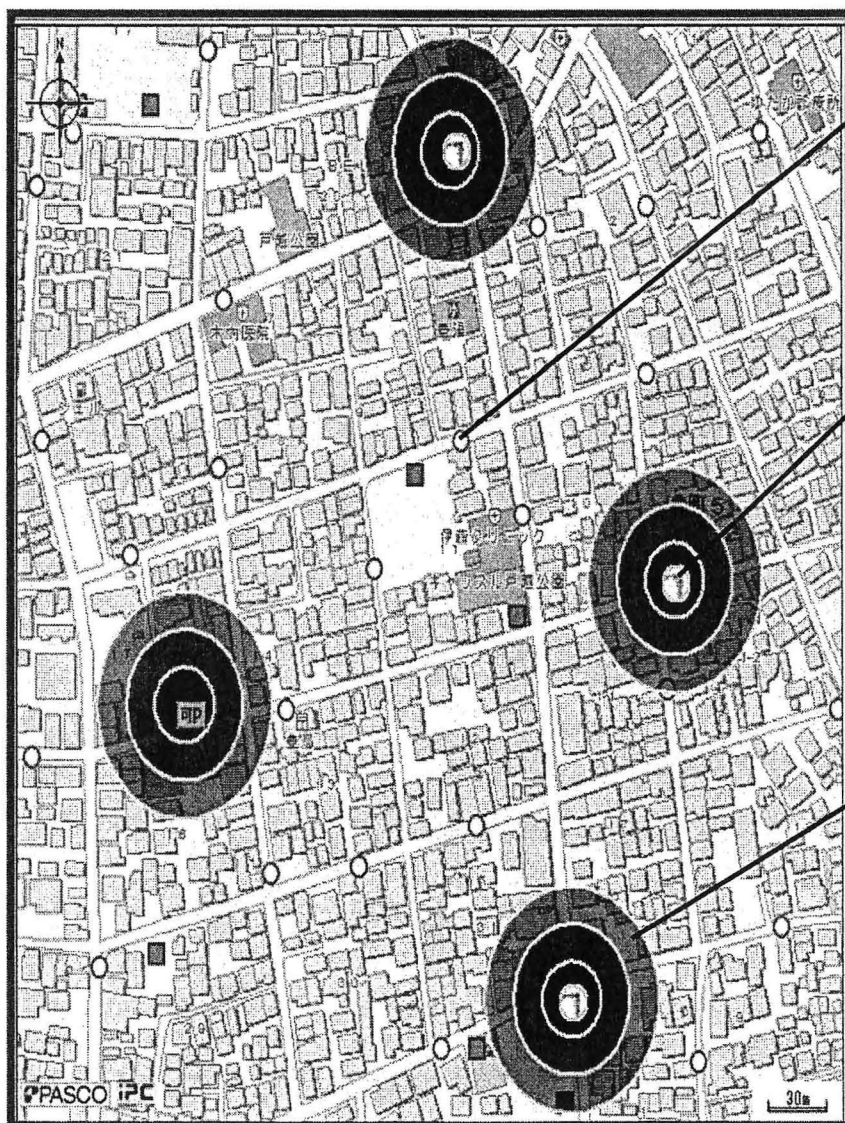
作図したデータを保存します。作図ツールの「ファイル保存」→「KMLファイル保存」をクリックすることで、作成したデータを保存できます。

地図を印刷します。右上の機能ボタンの「印刷」→「印刷設定」で「A4縦」か「A3横」をクリックし、「レイアウト表示」→「印刷」で印刷できます。

初期消火対応地図の作成例

(活用例)

町会・自治会の地図を表示して、消火栓や防火水槽等の位置を把握したうえで、スタンドパイプや可搬式消防ポンプの位置を作図し、ホース延長可能範囲を円で表示するなど、町会・自治会における初期消火対応の地図を作成します。



STEP 1

町会・自治会の区域周辺にある消火栓等の位置を確認します。

STEP 2

町会・自治会で所有するスタンドパイプを消火栓上に、可搬式消防ポンプを防火水槽上に配置します。

STEP 3

スタンドパイプ等の消火資器材を中心に町会等で所有するホース数に応じて、ホース延長可能範囲を円で作図します。

※ 地図上に図示した情報は仮想のものであるので、実情とは相違しています。

作成方法

準備

東京消防庁ホームページ→安心・安全情報→トピックス→訓練用防災マップをクリックします。住所検索から表示したい住所を入力し検索→地図表示をクリックします。

STEP 1

消火栓や防火水槽は、町会・自治会内のどこにあるのか確認しましょう。町会等の区域外の周辺町会の区域内にも、初期消火に活用可能な消火栓や防火水槽があるかもしれません。

STEP 2

スタンドパイプや可搬式消防ポンプを作図します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「点」で「スタンドパイプ」にチェックを入れて消火栓の上をクリックします。作図ツールの「入力図形を確定」をクリックします。同様に「可搬式消防ポンプ」も作図します。「可搬式消防ポンプ」は防火水槽の上をクリックすることで作図します。「スタンドパイプ」と「可搬式消防ポンプ」は資器材配置場所の一番近い消火栓、防火水槽に配置してみましょう。

STEP 3

ホースの延長可能範囲を作図します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「円」をクリックします。円の半径を「14m」に設定します。これは、通常ホースの長さは20mですが、路地を曲がりながらホースを延長することを考慮したものです。次に同心円の数を設定しますが、それぞれ消火資器材ごとに町会・自治会で所有するホースの本数を入力します。3本ならば「3」と入力しましょう。

保存・印刷

作図したデータを保存します。作図ツールの「ファイル保存」→「KMLファイル保存」をクリックすることで、作成したデータを保存できます。

地図を印刷します。右上の機能ボタンの「印刷」→「印刷設定」で「A4縦」か「A3横」をクリックし、「レイアウト表示」→「印刷」で印刷できます。

訓練想定図の作成例

(活用例)

町会・自治会の初期消火訓練等に先立ち、火点を設定したり、ホースの延長ラインを線で表示するなど、訓練想定図面を作成します。また、訓練実施後の推奨事項や反省事項などを記入し、次回訓練時に活用したりします。



STEP 1

訓練上の火点や、資器材の設置場所、家屋倒壊による要救助者、安否確認が必要な人などの情報を、点で表示します。

STEP 2

ホースの延長ラインや、消火・救助後の避難場所への経路などを、線で表示します。

STEP 3

訓練の想定や、訓練実施後の推奨事項、反省事項などを、文字で表示します。

※ 地図上に図示した情報は仮想のものであるので、実情とは相違しています。

作成方法

準備

東京消防庁ホームページ→安心・安全情報→トピックス→訓練用防災マップをクリックします。住所検索から表示したい住所を入力し検索→地図表示をクリックします。

STEP 1

訓練上の火点、スタンドパイプの設置場所、家屋の倒壊、及び安否確認すべき要配慮者などの情報を点で表示します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「点」で必要な想定を表示し、作図ツールの「入力図形を確定」をクリックします。

STEP 2

ホースの延長ラインや、消火・救助後の避難場所への経路等を作図します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「線」で作図します。作図ツールの「入力図形を確定」をクリックします。

STEP 3

訓練想定の内容を地図上に文字を追加します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「文字」をクリックし、作図ツールの「(3)表示する文字を入力」欄に表示したい文字を入力し、「入力図形を確定」をクリックします。順次表示したい文字を入力してください。訓練実施後の推奨事項、反省事項なども記入して、次の訓練に活かしましょう。

(例) 推奨事項：今回の訓練は、実際に自宅周辺を訓練場所としたことで、災害をイメージすることができた。

(例) 反省事項：消火栓にスタンドパイプを設置した際、一時的に消火栓周辺に人が不在になることがあり、危なかった。

保存・印刷

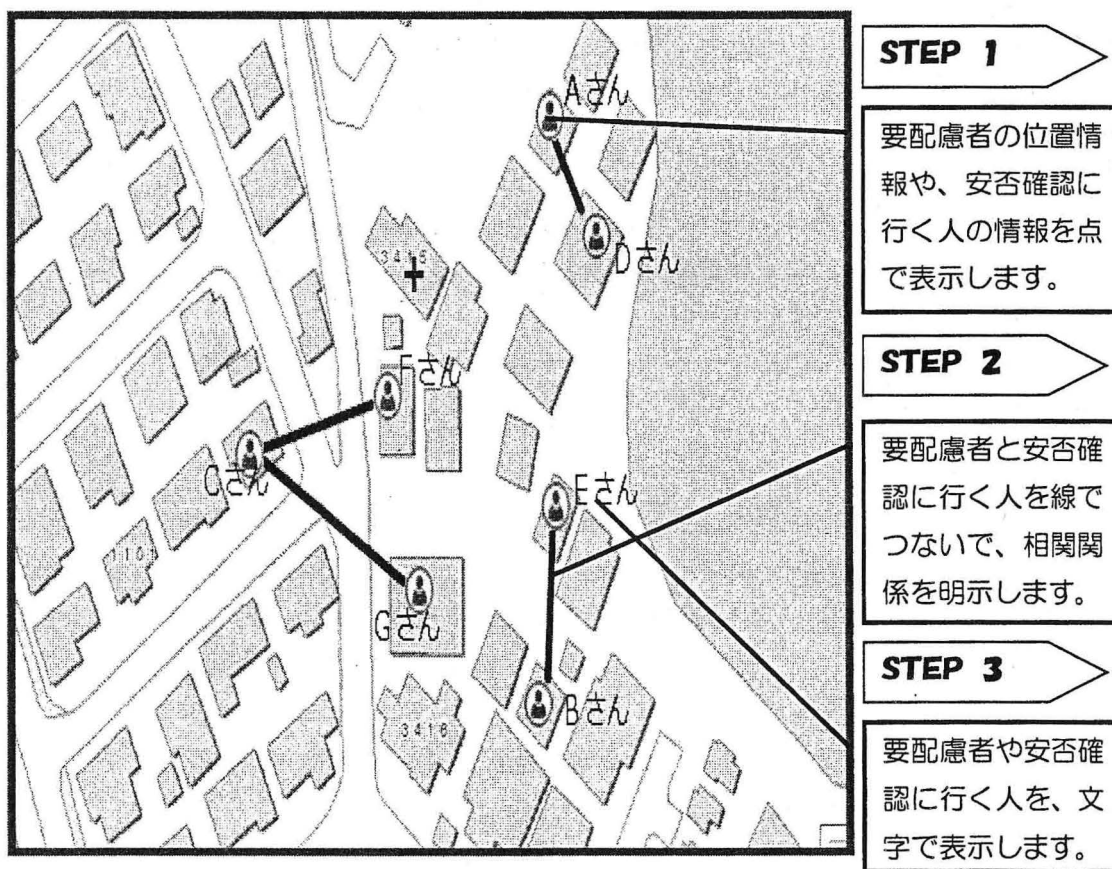
作図したデータを保存します。作図ツールの「ファイル保存」→「KMLファイル保存」をクリックすることで、作成したデータを保存できます。

地図を印刷します。右上の機能ボタンの「印刷」→「印刷設定」で「A4縦」か「A3横」をクリックし、「レイアウト表示」→「印刷」で印刷できます。

見守りマップの作成例

(活用例)

町会・自治会で独自に調査し、本人の了承を得ている要配慮者情報を作図し、見守りマップを作成します。どの要配慮者のところに誰が安否確認に行くかを明示するなどし、活用を図ります。



※ 地図上に図示した情報は仮想のものであるため、実情とは相違しています。

※ 町会・自治会で独自に調査し、要配慮者本人の了承を得ている情報をもとに作成してください。作成するマップには、個人情報を含みますので、取扱いには十分注意してください。

※ 区市町村から提供された情報の取扱いについては、区市町村の担当部局とよく相談してください。

作成方法

準備

東京消防庁ホームページ→安心・安全情報→トピックス→訓練用防災マップをクリックします。住所検索から表示したい住所を入力し検索→地図表示をクリックします。

STEP 1

要配慮者や安否確認に行く人の情報を点で表示します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「点」で必要な想定を表示し、作図ツールの「入力図形を確定」をクリックします。

STEP 2

要配慮者と安否確認に行く人の相関関係を線で作図します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「線」で作図します。作図ツールの「入力図形を確定」をクリックします。

STEP 3

要配慮者と安否確認に行く人の情報を文字で追加します。右上の機能ボタンの「描く」→「作図入力」→「文字」をクリックし、作図ツールの「(3)表示する文字を入力」欄に表示したい文字を入力し、「入力図形を確定」をクリックします。順次表示したい文字を入力してください。例では、要配慮者と安否確認に行く人の文字色を変えることで、相関関係が明確になるようにしています。

※ 個人情報の取扱いには、十分注意してください。

保存・印刷

作図したデータを保存します。作図ツールの「ファイル保存」→「KMLファイル保存」をクリックすることで、作成したデータを保存できます。

地図を印刷します。右上の機能ボタンの「印刷」→「印刷設定」で「A4縦」か「A3横」をクリックし、「レイアウト表示」→「印刷」で印刷できます。